

「風土」分科会では、「塩の道エコミュージアムの形成」をテーマに、「地域資源を生かして地域と人を元気にする取組」の報告などを踏まえて、意見交換がなされた。

コーディネーター	財団法人阿智開発公社	理事長	羽場 睦美
報告者	三遠南信アミ	理事	中野 眞
行政	設楽町	町長	横山 光明
	湖西市	市長	三上 元
	飯田市	市長	牧野 光朗
	松川町	町長	深津 徹
	天龍村	村長	大平 巖
住民	地域づくりサポートネット	理事長	山内 秀彦
	てほへ	副理事長	大脇 聡

(敬称略)

## ■はじめに 事務局

それでは「風土」分科会を開会させていただきます。

この会の運営につきましては、コーディネーターを財団法人阿智開発公社理事長の羽場睦美様をお願いして進めてまいります。

## コーディネーター

### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長



今日の分科会の内容ですが、大きく3つに分けて進めてまいりたいと思います。

最初に、第1期のプロジェクトのおさらいを行い、三遠南信地域連携ビジョンの23年度までの4カ年の第1期の位置づけを振り返りたいと思います。

2つ目に、基調報告といたしまして、三遠南信アミの中野眞理事様より、この問題を考えていく上で、参考になるご報告を賜りたいと思います。

それから、3つ目ですが、第2期に向けて皆様のご意見をいただき、分科会としてのまとめを模索したいと思っております。

それでは、第1期のおさらいをしてまいります。様々なプロジェクトがありますけれども、その中で最も重要なプロジェクトを4つにまとめてこれまで推進してきました。1番目は、塩の道風景街道の体制づくりということで、風景価値を高めるための地域連携・発信活動、地域資源の掘り起こし、自然、歴史、伝統文化、暮らしを学び、伝える活動を行っていくということでした。

2番目ですが、地域資源を生かす鉄道の

有効利用ということで、飯田線や天竜浜名湖線あるいは路面電車等を活用した展開がなされたものというふうに理解しております。

3番目ですが、そうした内固めをする中で、海外への観光情報発信あるいは外国人の観光誘致を促進するということでした。国は観光立国を宣言しておりますけれども、地域においてこれらを進めていくということです。これらも自治体や経済界あるいは地域の方々が地道な活動を進めてこられたと理解しております。

それから、4番目ですが、三遠南信アンテナショップの開設ということも課題として挙がっておりました。この辺も検証していきたいと思えます。

P D C Aサイクルのような形で、ビジョンで定められた計画を実行し、それを今日、チェックしながらまた次のアクションを起こしていくことになるとイメージしております。

具体的には、今、振り返った内容の工程表、プロセスをご覧いただき、パネラーの皆様には、どのような経過があったか、それらも踏まえながら、全体を見渡してご意見をいただきたいと思えます。

それでは、2番目のパートとしまして、基調報告をいただきたいと思えます。報告者は三遠南信アミの中野眞理事さんです。よろしくお願ひいたします。

## ■ 報告

### 「地域資源を生かして地域と人を元気にする取組」

#### N P O法人三遠南信アミ 中野理事

N P O法人三遠南信アミの中野と申します。風土の分科会ということで、ご報告をさせていただきます。

私どものN P Oは、「三遠南信アミ」という名前がついておるとおり、「アミ」という

のは仲間とか友達という意味ですけれども、三遠南信地域のさまざまな人とのネットワークを生かしまして、地域あるいはそこに住む人たちが元気になるようにということで、さまざまな事業をやらせていただいております。

私どもN P Oがやっていることは、本当に地域にあるニーズを捉えて、自分たちの力でできることを取り組もうということなものですから、非常に事例としては小さな地道な活動をこつこつやっておりますということですが、その先に、三遠南信地域全体を捉えて、地域課題の解決に向けていろいろなヒントがあったらいいなということで、報告をさせていただきます。

これは天竜川の風景写真になりますが、飯田、浜松、龍山村のあたり、阿南町の和合川、正式には和知野川と言いますが、こんな天竜川の流れの中で、三遠南信地域が、南北の交流の中で、文化、経済の交流があるということです。塩の道というテーマで言うならば、塩の道は物流の道でもあったかと思えます。私どもが今行っている活動は、新しい物流、三遠南信地域の中の小さな物流をつくっていこうという取り組みになります。

次に伝統文化の写真ですが、阿南町の念仏踊り。これは遠州の大念仏と非常につながりの深いということです。いろいろな交流があることが見えます。あと天龍村のお祭りの様子です。

三遠南信地域の特徴というのは、天竜川水系ということが1つあります。東西が経済の中心になってはいますが、南北という非常に重要な長い歴史を持った交流が大きいということで、実は東西南北の経済文化の結節点といいますか交差点、それから標高0 mから1,000 mぐらいまでが、二、三時間の中にあるという非常におもしろい地域であるとか、桜が1カ月楽しめる地域

だとか、色々な見方があると思いますが、その中から何か事業を展開できないだろうかと考えています。

地域資源を生かすということですが、地域資源は4種類に分類できると思います。自然や風景、歴史や文化、物と事、それから人と技。こういったものがこの地域に数多く存在します。それらを今生きている我々がどう捉えて、どう生かしていくかというのが大切なことではないかと考えております。

新しい価値をつくっていきこう、高めていきこうということで、見つけて、磨いて、見せて、伝えるプロセスを踏むことが大切だろうと考えています。自分たちのまち、地域にあるものを再発見する。それから、それを今の人たち、住んでいる人たち、あるいは観光の人たちの視点で見、磨き上げる、品質を高める、そういったことが必要だろうと思います。当然ですが、そのためには協働だとか連携というものが必要になってきます。それから、見せるという形でも消費者の感性に合った形に見せるということが大切です。あと、情報発信であったり、情報共有であったり、あるいはコミュニティということで、私どもは「共感のマーケティング」なんて言い方をしていますが、伝えるということが大切です。この繰り返しをしていきたいと思います。と、考えております。

三遠南信地域の地域資源を生かした取り組みということで、三遠南信アミとして今までやってきたことを踏まえて、これからやっていきたいこと、やるべきではないだろうかと思っていることを簡単にご紹介させていただきます。

三遠南信地域の魅力をどう捉えるかというのは、いろいろな捉え方があるかと思いますが、とにかく豊かな自然環境。天竜川を背骨に、豊富な水資源、日本有数の日照

時間とか様々なすばらしい自然環境があります。それから、標高ゼロメートルから1,000メートルまでを、二、三時間の中で行き来できます。それから今、私どもが感じているのが、現実的な経済と申しますか、小さいけれど、物が動いて、お金が動く仕組み、それが地域の人たちにきちんと還元され、循環していくという経済の仕組みをつくることの大切さです。それが元気のもとだろうと思っています。そして、まずできることが、農産物とか食文化ではないかと思っています。遠州、東三河の海、砂地でとれる作物、それから遠州の大地だとか東三河の赤土でとれるもの、それから山合いでとれるさまざまな野菜、果物、野草、そういったもの、あるいはそこにある食文化というものがすばらしい地域資源だろうととらえております。それから、コミュニティを源にした伝統文化というものも大切な魅力として捉えています。

次に環境の変化ということですが、大きな都市、市民の価値観、ライフスタイルの変化ということがあろうかと思っています。田舎に対する憧れもありますし、昔ながらの自然の中で暮らすライフスタイルというものも見直されています。それから、環境保全への対応、エコロジーというのが大切なテーマであるということです。

先ほどの全体会でもお話がありましたように、三遠南信道路の一部開通、それから来年、静岡県内では新東名が使えるようになるということで、この道路のインフラ整備を大きな環境変化としてどう生かしていくかというのが大きなテーマになるかと思っています。

この辺の環境変化をどうしていけばいいのかということですが、そのときの捉え方として、自立・自律した地域づくり、安心・安全な暮らし、それからこの100kmぐらいの中の地域文化経済圏として考える

ことが大切ではないかと考えております。人が、二、三時間で移動できる範囲というのは、人と人がつながれる、あるいは知り合える、物が動きやすいという範囲ではないだろうかということです。この地域内の経済というものをきちんと確立することも必要だと考えております。もちろん、グローバルな大きなビジネスはもう一方で重要なテーマですけれども、やはりこの地域の中の経済圏というものを確立することも大切なテーマではないだろうかと考えております。

ここから先は、こんなことをやっていくべきではないか、やっていこうよということですが、山間の加工力を生かす連携による地域ブランド商品づくりです。南信州、奥三河あるいは遠州の山間部というのは、過疎化、高齢化という問題を持っているわけですが、実は豊富な食品加工、食文化が非常にすばらしいものがあって、それが連綿とつながってきている。それから今いらっしゃる方々のおいしいものをつくる力。もちろん設備としての加工場、そういったものも非常に充実しております。

一方、三河のほうは、結構、食品加工業が盛んですけれども、この遠州地域になりますと食品加工業というのは非常に弱く、せっかくすばらしい農産物がとれても、それを地元で加工し、付加価値を高めて、6次産業化あるいは農商工連携ということを考えたときには、実は地元で加工する力が非常に弱いということで、山の加工力、山間部のすばらしい食文化と、この遠州、東三河の農産物が連携できればすばらしい地域商品ができるのではないだろうかということです。

それから、それをもっと進めていくためには地産地消の実現ということで、三遠南信の交流市場、B to Bということですが、実は私どものNPOもコーディネー

トさせていただきながら、浜松の駅周辺の商店街で軽トラ市というのを今年の1月から毎月第2土曜日に開催させていただいています。この地域では新城市が先駆けて始められた軽トラ市ですけれども、浜松の街中でも開催しております。

農家が街にやってきたというコンセプトで、田舎の村から、農家が浜松の駅前の中心街に軽トラに乗ってやってきて直売するという形でやっています。その中に三遠南信というテーマも入れまして、実は遠くからも来ていただいています。これはB to Cという言い方になります。business to businessではなくて、business to consumer、要するに一般消費者向けの販売の機会をつくっております。

ただ、それをさらに一歩進めるためには、事業者間の取引です。もっと需要の大きな取引が始まらないと地域の経済の活性化にはつながらないだろうと考えます。飲食店とか問屋とかスーパーとかもう少し需要の大きなところと三遠南信地域の農家や食品加工場、そういったところが結びつく場づくりをする必要があるのではないかとというのが三遠南信交流市場の提案です。

あと、私の仲間が言った言葉ですが、「帰っておいでよ、三遠南信に」ということで、都会で疲れた人たちもこの三遠南信地域においでよということで、観光ということもありますが、半定住あるいは定住ということにつながっていく話だと思います。そういったコーディネート機関や事業が必要ではないかなと思います。

もっと具体的に言うと、桜を1カ月楽しむという三遠南信ならではの企画ができませんかと思っています。これは一つの例ですが、浜松あたりですと、3月の終わりごろに桜が満開になります。その後、北上してきますが、4月の終わりごろまでの約1カ月、三遠南信地域では桜が楽しめるとい

うことです。しかも、三遠南信地域にはすばらしい桜の木が、数多く存在します。私どものNPOでもお手伝いさせてもらっている長野県の売木村にも、しだれ桜が十数本ありまして、すばらしい地域資源であると思います。このような切り口もあるのではないかということです。

それからもう一つ、全てできるかどうかは別として、東日本大震災の後、自然再生エネルギーが注目されています。南信州、飯田の方では、もう先駆けとして太陽光発電の事業が非常に活発ですけれども、もう一つ考えてもいいなと思ったのが小水力発電と地中熱利用ですけれども、特に今私どもで勉強会をやっているのは小水力発電、水車による発電です。

山の方へ行くとおじいちゃんたちから50年ぐらい前はみんな水車を回していたという話を聞きますけれども、非常に現実的で、実は技術的にも安定したものだそうです。こういったものを見直してもいいのではないだろうか、今、実際にやろうという話も出てきておりまして、そのサポートをしようと思っていますが、この辺の自然再生エネルギーあたりも三遠南信地域ならではのものがたくさんあると思っています。三遠南信アミが提案する事業というのは、今このようなものでございます。

続いて、具体的な事業のご紹介ですけれども、できるだけ三遠南信地域のものが、この地域で、物流で回るよう、少しでも都市部の消費者の方を買っていただいて、お金が山に戻るように、そういう機会をつくらうということで、小さいながらも色々な取り組みをしています。山と里と海を物でつなぐということですが、私どもは物でつなぐということが今大事ではないかと思っています。小さな地域経済圏、小さいけれどもこういったことから始めないといけないのではないかということによっておりま

す。南信州の凍み大根ですが、浜松とか豊橋ですと、この凍み大根を食べるという食文化はあまりないのですけれども、びっくりするほどおいしい食品なんです。これは、やはり冬の間、野菜がとれない南信州のほうの知恵だと思います。天日干しができるというすばらしい自然環境を生かした生活の上での知恵ということで、市田柿、干し柿はもちろん有名ですけれども、野菜も天日干しをするということを知りました。南信州ですと、それほど大根がたくさんとれるわけではないという話を聞きましたが、浜松では実は大根がたくさんとれます。浜松駅から北へ6、7km行くと三方原という台地がありますけれども、そこでは冬の間とてもたくさんの大根がとれます。私の知り合いの売木の農家の方に言って、浜松の大根で凍み大根をつくってもらいました。去年は、少しだけ、300kgぐらいだったのですけれども、僕は、つくったものを浜松でPRしたくてお願いしたんですが、3月になっても連絡が来ないものですからどうしたかと思ったら、全部、信州で売れちゃったと言われました。今年は浜松でPRするからということで、その何倍かを予定していますが、とりあえず2トンぐらいの浜松の大根を南信州へ運んで加工して、おいしいこの食文化を知っていただく機会をつくろうという取り組みをしています。ほかには、浜松の山の方の春野町の七茶めぐりというのと、それから遠州紅茶セットというのを三遠南信アミの企画でやらせていただきました。これは、山のお茶農家が、とても経営が厳しい状況にあるということで、春野のお茶にも様々なお茶があることを知っていただくとうと10グラム入りのお茶のセットをつくってPRしました。NPOとしての役割は、そのコーディネート、つなぎ役だと思っていますので、商品を知っていただく機会をつくることにより農家を応

援しようと、このようなことをやらせていただいております。

また、浜松の商店街にある地産地消のスーパーに三遠南信コーナーを設置したり、先ほど言った軽トラ市、新城でやっている田舎暮らしのための体験ハウス、岐阜県の石徹白へ小水力の視察などを行っています。

最後にコンセプトとスタンスという形でまとめさせていただきますけれども、現場で地域ニーズをきちんと捉えて、小さなことから始めるというのがNPOの役割だと思っています。先駆けとしての役割がNPOであり、ここから本当に地域経済に大きく展開できるものを発展させていただければと思います。三遠南信アミとしての取り組みは、小さなところからこつこつと地域ニーズに合ったものを事業化して、それを発展させていこうということで取り組んでいます。

以上、小さな取り組みですけれども、ご参考にしていただければと思います。

## コーディネーター

### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

ありがとうございます。地についた活動の中に様々なヒントがございました。天龍村の大平村長さんにご意見をいただきましたと思います。お願いいたします。

## ■ 議論・意見交換



## 天龍村 大平村長

全部言いますとたくさんになりますので、私からは2点だけ問題として提案をさせていただきます。田舎のものを都会の人にも知っていただくとか、あるいは今まで知らなかったことを覚えていただくというような取り組みはこれからもしていかないとはいけません。今までも行ってはいますが、なかなか地についていない。

そこで、1つは、郷土の祭り、郷土の文化、これを題材にして今までもいろいろやってまいりました。私が教育長時代には、この三遠南信の祭りを1カ所に集めて、皆さんに見ていただく行事をやったことがありましたが、以後、立ち消えになっております。まず祭りの捉え方ですが、祭りというものは、各地域にそれぞれのお祭りが伝統されております。

これは、神への感謝の気持ちを祭りであらわしていたもので、いわゆる観光ということをおかしては全然意識していませんでした。1年間安全に暮らせた、そして穀物がとれた豊穰、そういった気持ちを神に感謝することによって祭りが生まれたものでございまして、それをある時期から、観光に利用したいという話があって、そこから始まりました。それはそれとして、今の時代にはいいわけですが、本来ならば、たとえ人が少なくとも、信仰とその中で行われた祭りですのでやっていかななくてはならないわけですが、高齢化とか継承者がいないということから、どうしても皆さんに見てもらふことによって若者に祭りを継がせたいという気持ちもあって、観光として力を入れてまいりました。

実は、祭りこそ、その現地で、その日に、その場で演ずることが一番大事であって、単なる観光でやることは、私は反対だったわけですが、現在としては、このように集めたやり方もやぶさかではございま

せんが、そのこともひとつ考えた上でやっていただきたいということが1点です。

もう一つは産物です。産物も同じことです。田舎で食するものは各地にあるわけではありません。その地域独特のものです。作物でもその土地でなければできないものもありまして、必ずしも、それをほかへ持って行って作物をつくっても、同じものができるとは限りません。例えば、上村に芋の有名なところがありますが、この芋を私の村へ持ってきてつくっても、同じものできません。現地へ来ていただいて、それを食べることによって、その地域を知っていただくということは大事なことだと思い、今もそういったことには力を入れております。暖かいところでゆっくりした生活の中で食べるのと、厳しい生活の中で食べるのでは、同じ食物でも味が違ってくるということもございます。ぜひ体験の上でそういったものを食べていただくような構成にしていただければいいかなと思っております。

そういった食文化につきましても、あるいは郷土の芸能文化につきましても、できるだけ現地で経験していただくこと、年に一回なり二回なり、そういったことに参加することでいい感触が出るのではないかと思います。祭り、文化、ほかにも水力発電とかいろいろ問題提起していただきましたけれども、祭りと食文化、これについては、現地の実情も合わせて、ぜひこれからもかけ声だけじゃなくて本当に実現できるような計画をお願いしたいということが私からのお願いでございます。

#### **コーディネーター**

#### **財団法人阿智開発公社 羽場理事長**

その土地やオリジナリティを大事にしなから事業を考えていくということが大事だというご指摘かと思えます。

それでは、横山町長様、お願いいたします。

#### **設楽町 横山町長**

今、天龍村の村長さんがおっしゃられたように、祭りというのは、その土地、その土地に即した伝統あるそういういわれの中で行ってきた行事ということですので、それをひとつの観光として生かす方法や多くの人たちに見てもらえるような場面をつくるということについては、私も村長さんと同じことを感じているわけですが、しかし、地域にあるものを広く発信するという意味では、これも一つの方法なのかなと理解しております。

村長さんは天竜川水系の祭りのお話でしたが、私どもは豊川水系上流ですが、やはり祭りという文化とあわせて、もう一つはお盆の行事というのがあります。以前、設楽の町の中で、イベント事業という形で、設楽の盆という銘を打って、この行事を行いました。そのときに、設楽の盆はもちろん、天竜川水系、また近在する市町村の方々に声をかけて、各地区で行われる盆行事を一堂に会してイベント事業として行ったわけです。

旧学校のグラウンドで行いましたが、各地から盆行事を提唱していただいて、実践してもらいましたが、ものすごい大勢の人が集まりました。これは1回で終わってしまったのですが、なぜ1回で終わってしまったのか考えなくてはいけないと思います。要は、大勢の人が集まり過ぎて、運営が大変であったということが一方ではあったという事実があるわけです。

しかし、それだけ大勢の人が集まる機会をみすみすやめてしまうのもいかがかなということも一方では思っております。これを何とか三遠南信地域としての一つの売りの行事として生かすことができればどうか

ということも一つの案として考えます。

そして、中野先生から山村の加工品の地域ブランド化という話がありましたが、私どもも、常々、何か地域の商品売り出しでいきたいということがあるわけです。それは何かという中で、獣害対策で獲ったものの肉、イノシシとかシカ、そういったものをジビエ風にして、広く高級料理化してブランド化を図って売り出しができないかと考えました。これには、獲ってくる人、肉をさばく人、流通していく人、流通ということは、食品衛生法も全部クリアできて、そういう組織化をきちんとこの地域で図れて、定着できるような体制ができること、このことは、各市町村、この山間地域はみんな悩んでおりますので、これをうまく使えるような方法ができないかなということ、今うちの町でも研究をしているところです。何か良い使い方があればと思っています。

そして、もう一点は花を強調した地域観光ということで、私どもの町も、従来から一般の人たちが自分の家庭で管理してつくってきた花木があるわけです。春になると地域で一斉に咲き誇るというような場面ができてくるわけですが、私の町にもしだれ桃を地域を挙げて育ててつくっているところもあって、その花を見たくて大勢の人が観光として来てくれるような実態ができております。私は、町全体で花を売りとした観光資源として、これを広くPRしていますが、うちの町だけではなく、三遠南信地域、新城以北から飯田市までずっと地続きで、どこへ行ってもシーズンになると花があるとか、そういう花のチェーン化を図って、観光資源につなげていけるような地域となっていればいいのではないかと思います。

## コーディネーター

### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

それでは、三上市長さん、お願いいたします。

### 湖西市 三上市長

私が感じたのは、何か交流をしようと思ったときに、やってみなければ、どうもうまくいなくてやめてしまったものと、交流が発展して、つながりがどんどんできていくという2つが生まれると思いますが、やはりやってみないとわからないということです。いろいろなことをやってみて、それがうまくいくのかどうかという問題で、たくさんチャレンジしてみればいいかなと思います。

あちこちに自分たちの食べ物を広げようとしても、なかなかうまくいくものといかないものがあるという話がありましたが、考えてみると、ビールというのはドイツのどこかで始まったのが世界のビールになったんですね。私の女房の実家は松本ですが、松本に煮イカというイカを煮た料理があります。松本の人にはみんなうまいと言って食べますが、私にはあまりうまいと思えません。そういう意味では、あちこちに波及するものとしめないものがある。しかし、それはやってみなくてはわからない。

カボスが四国のまちから全国に大変ヒットしたという話も聞きましたし、何かの商品が、あれっという形で伸びていくことがあるかと思います。昔、遠州では納豆のことを糸引き納豆と言っていました。水戸納豆のことです。遠州には浜納豆というのがあります。浜松の納豆ということなのか、浜名湖の納豆ということなのかはわかりませんが、浜納豆は、大徳寺納豆です。京都にも似たようなのがあります。醤油で煮詰めて干からびさせ、しょっぱい味がしますが、そっちを私は食べていたから、糸引き



納豆は食べられないと思っていましたが、糸引き納豆のほうが日本全国を制覇したわけです。残念ながら、浜納豆は知られていません。そういう意味では、こっちのほうはどう考えてもポピュラーだと思っけていても、そうじゃないほうがポピュラーになってしまうということがありますので、私はいろいろやってみるべきじゃないのかなと思ってます。

最近、私は、原発はやめろと言っけていますが、ここは水が豊富ですから、佐久間ダムに任せておいてあとは何にもやらないということではなくて、ぜひ小水力を発展させていきたいなと考っけています。湖西市には高い山がなく、ちよろちよろしか流れませんので、中水力というのものもあるらしいのですが、飯田市は太陽光で既に名を上げていますが、小水力に注目しているところなんです。

祭りについては、浜松は凧揚げ祭りが有名になったのですが、もう一つ、浜名湖の周辺には大太鼓まつりというのがあります。これは、うまくやれば世界の人たちが集まってくるのではないかという気がしています。手を血だらけにしてたたく直径2m40cmの大太鼓というのは、なかなか迫力満点でおもしろいなど。ぜひ一度、10月に見に来ていただきたいと思っけております。

#### コーディネーター

##### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

どんどんイメージが膨らんでまいりました。牧野市長さん、よろしくお願ひします。

#### 飯田市 牧野市長

飯田市長の牧野でございます。

先ほど、アミの理事さんからもお話がありましたけど、地道にできることからという姿勢は、いかにも私どもの三遠南信地域らしいなと思っけております。

もう一つ、視点として私が重視したいと思っけているのは学びでして、三遠南信地域というのは非常に学びの要素がたくさんあり、これをまた、地域の皆さん方が学んでいこうという姿勢を持っている地域だと思っけます。その中で、過去の先人たちもこの地域から数多く輩出されてきていると思うところでありまして、そうした学びの風土というものを生かして、これからのこの地域、まさにエコミュージアムというのは、そういった考え方が入っていると思っけています。

南信州は、グリーンツーリズムではかなり全国からも注目される取り組みを進めてきております。体験教育では、中学生を中心として、大体2万人ぐらいの子どもたちに体験教育の場を提供してきています。最近、ここ4年間ぐらいでそれをさらに進めて、大学あるいは大学院のフィールドスタディにつきましても、裾野を広げてきているという状況です。

今年度から初めましたので実績はこれからですけれども、それをさらに企業人の研修まで持っけていくことも始めております。これは、この地域の学びの風土の中で、先ほどからお話がありましたように、本当に体験して初めてわかる、そういったものを学んでもらうことによって、この地域の価値を知ってもらい、また何度も来てもらえるような地域であるということを知ってもらい、そんなことをやっけてきているところなんです。やはりこれから、こうした考え方で、まさに地道な活動の中にこそ学びの要素があるということをもっと情報発信していければと思っけております。

#### コーディネーター

##### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

では、深津町長さん、よろしくお願ひいたします。

## 松川町 深津町長

松川町長の深津でございます。地域の宝、地財を再発見、再認識し、発信していきまうというのが私の大きな公約の一つですが、自分の町には、果物、そしてきれいな環境等があるわけですけれども、それを地域の人たちが再認識するべきだと思います。地元の人たちは自分の町がすばらしいんだとプラスに発想をすることが苦手です。どちらかというと、マイナス思考に考える。人口減少時代の中で、いろいろな状況下の中でマイナスに考えてしまう。私は、どちらかというとプラスに発想していく人間でありまして、それを今、町長という立場で、住民の皆さんにアピールをしているのが現実です。プラスに捉えて、それを考えて発信していこうと。

それから、人口減少時代の中で、交流人口を増やしていきたいということが大きくございます。人が動き、物が動き、お金が動き、情報が動くという考えがありまして、そういう考えのもとで、地域の宝、地域の財産を発信していくというのは、その交流人口を増やし、そして活力を生み出していくということです。

もう一つ、少し違った方向から話しますと、地元の商店街で、300メートルぐらいを歩行者天国にしまして、「ぺっかん楽市」を行いました。これは10年ぐらい前になりますけれども、私が商店街の会長をやっているときに、空き店舗を使いまして、ペットボトルと空き缶を回収する機械を置きまして、そこで商店街がボランティアで回収をして、つぶされたペットボトルや缶を業者へ運んだわけですが、それが名前の由来となっています。それ以降は、お年寄りのバスを待つ間とか、交流の場として利用しています。

始めましてから、もう6、7回目ぐらいになりますけれども、伊那谷グルメサミッ

トというように銘打ちまして、北海道物産展あるいは姉妹都市であります牧之原市の皆さんがお茶を売ってくれたり、富士宮の焼きそばや高森からどんぶりが来たりいろんな形の中で行い、非常に多くの人が集まりました。このように交流を目指したイベントは行っていますが、今、話を聞いておりまして、今は、自分の町、地域の人たち、近隣の人たちにアピールをしてやっているわけですけれども、その輪を広げて、今度は、南信州、そしてまた三遠南信という形の中で、そうしたイベントあるいは交流というものをどのような形に取り入れていくのがいいのかなと思いました。今、自分の町のことで正直なところ手いっぱいという感じですが、それを今度は、南信州、そして三遠南信に広げていくには、どのような形に持っていったらいいのかなということをお願いしながら皆さんのお話を聞いていた次第です。

## コーディネーター

### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

それでは、地域づくりサポートネットの山内様、よろしくお願ひいたします。

## 特定非営利活動法人

### 地域づくりサポートネット 山内理事長

私は、今回の住民セッションの取りまとめ役として、住民セッションで議論した2つの内容を報告させていただきます。

まず、1つ目は三遠南信ビジョンの振り返り、もう1つは、住民セッションの中で3つの提案とそこでの議論を紹介させていただきます。

まず1つ目のビジョンの振り返りでは、住民団体が主体的に関わるプロジェクトとして「塩の道風景街道の体制づくり」があります。塩の道、すなわち、塩の道自体を言っているわけではなくて、南北軸の川筋

とか街道を通じた連携軸のことを総称しているもので、風景街道による官民一体の体制づくりというものです。風景街道は、道路でつながる地域が地域の資源をうまく活かしながら、磨き上げ、それを後世に伝えるという国土交通省の風景街道の施策です。中部ブロックのエリアを見ると長野県の南信地域には比較的たくさん登録されており、木曾、伊那、南信州では、実は7ルートも設定されています。その中で、秋葉街道や遠山郷のまつり古道の風景街道などが登録されています。南へ下がり、愛知県三河、さらには静岡県遠州というのは、浜名湖を除いて現在は風景街道の取り組みはありません。同じ静岡県を見ますと、伊豆地域、富士山の「ぐるり富士山」。静岡市内の東海道宿の「東海道2峠6宿」。大井川流域の南アルプスへの道という「お茶街道」。あとは、こちらの遠州地域では、浜名湖のサイクリングロードが登録されています。

しかし、三遠南信の南北軸・川筋、秋葉街道とか豊川筋などについては、なかなかそのような連携軸がありません。三遠南信の連携軸のプラットフォームとしてこのような風景街道も手法の1つであるということではありました。この風景街道の体制づくりというのは、ビジョンの中では市民団体等を中心に事業内容を検討することになっておりましたが、そこまでは至っていません。風景街道とは何か？というようなところの話し合いも緒についていないという状況です。

今年、浜松市制100周年の記念事業の中で、静岡県側の天竜川の川筋だけでも何とかならないかということで、私たちが、天竜川ネットワークをつくる取り組みを始めています。また、県の事業として「川筋の往来文化」を街道観光につなげていく調査も行っています。昨日も、その事業の一環として天竜川エコツアーを実施して、北遠三

霊山をめぐる旅、それから中央構造線を学ぶ旅を行ってきました。大変に好評で、参加者からも非常に高い評価をいただきました。同じ圏域の飯田市で行っているグリーンツーリズムや体験教育の先進的な取り組みを学び、遠州の自然や歴史文化を活かしながら、うまく観光にもつなげながらその風景を情報発信して、そこに人を呼び込んでいく、そのような仕組みを地域の中でつくっていく必要があります。これは国土交通省の施策でもあるので、住民団体だけでなく、国や自治体、道路管理者も関わらないとできない仕組みになっていますので、それはこのようなサミットの中でもしっかり議論していく必要があるのかなと思っております。天竜川筋、あるいは豊川筋の連携軸ができると、この塩の道エコミュージアムのプロジェクトに合致してくるのではないかと思います。南信州では「秋葉街道信遠ネットワーク」ができ上がっているので、そことつながっていくことも可能かと思えます。まず、それが1点です。

それともう一つ、実は住民セッションができて今回で3巡目に入ります。これから3巡目の3年間の中でどうするかということで、今までの自分たちの活動を知り合うところからもう一歩進めて、実利があがるビジネスにつながるような取り組みをしながら、自立できる活動にしていけないといけないうような考えのもと、仮称ですが「ローカル商社プロジェクト」という形が提案されました。中でも三遠南信アミの中野さんから特産物や農産物をBtoCとか、あるいはそれを流通や販売などにつなげ、外へ発信していく提案がなされました。それを三遠南信の中で、やりたい人たちが、この指とまれ方式で、自分たちの責任も含めてやっていく。それでないと、みんなで一緒にとってもなかなか進まないから、とにかくやる気のある人たちだけで進める方針です。

先ほどの湖西市長の話と同様に、とにかくやってみるということで、まず今回はプロジェクト提案がなされました。

全部で3つのテーマによるグループに分かれました。もう一つは、グリーンツーリズムやエコツーリズムなど、「着地型観光」の仕組みを三遠南信の圏域の中でもうまく連携していくプロジェクトです。資源はたくさんあるので、それをどうやってつなげていくかというような議論がありました。飯田では「南信州の魅力お勧めスポット」という冊子もできていまして、これを三遠南信に広げていって、協賛店など負担金をもらいながら作って紹介していくということです。5つのテーマによるシリーズでつくっていききたいという提案もありました。それから歴史文化を活かした「観光まちづくり」もやっていこうということで、これもこの指とまれ方式で、次に会合を持とうと話しました。

それらを進めていく上で一番重要になるのがやはり「情報交流」です。月並みですが、ブログで三遠南信のいろいろなものを紹介していく、あるいはそれぞれが紹介し合う。ITも活用しながら、アナログの情報誌みたいなものも活用して三遠南信のいいところ、地域の取り組みを紹介していく、そういうものやっぺいこうじゃないかということです。何をやるかとか、うちの町はこうだとかということは今までずっと議論してきましたので、今度の目標は、やる気のある人たちで連携して、とにかく事を起こしていこうと。

どの程度までいつまでというところまでは至っていませんが、住民セッションの報告をする機会がないので、ここで時間をいただきまして、住民セッションの議論を参加者皆さんにも知ってもらうため私が紹介させていただきました。

## コーディネーター

### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

貴重なご報告ありがとうございます。午前中私は大学セッションの方に出たのですが、こちらにも報告の機会がないということで、少し残念に思っています。

さて、では、てほへ副理事長の大脇様、お願いいたします。

### NPO法人てほへ 大脇副理事長

私は、奥三河の東栄町でNPO法人てほへというものをやっております大脇と申します。

この「てほへ」は、和太鼓の「志多ら」が拠点を奥三河に22年前に移して、20年たったときに自分たちの活動の足元を見て、20年間奥三河に住んで活動している中で、この地域が抱えている色々な問題を目にしたときに、何か自分たちが、和太鼓の演奏グループとして、また地域の住民として何かできないのかなということをグループのメンバーと話し合っぺ、地域の人に協力をお願いして、NPO法人てほへを立ち上げました。基本的には、奥三河というか東三河、三遠南信、このエリアを元気にしていこうと。私たち、仕事が太鼓打ちなので、お祭りとか太鼓とか、そういう伝統芸能みたいなものを生かしながらできないかなということで立ち上げたNPOです。

私も含めて「志多ら」のメンバーは全員Iターンです。住民票を移して、東栄町民になって活動しています。それで、今、私たちの集落は30軒ほどしかないんですけども、本当に過疎高齢化で、若者がほとんどいない状態のところへ入らせていただき、色々な関わりを持つ中で、花祭りというお祭りにも参加させていただきながら、私ももう人生の半分以上は東栄町民ですので、半分よそ者で、半分地元の者としてそのお祭りに関わらせてもらっています。そ

ういう中で、やっぱり奥三河とかこの三遠南信地域にはすごくいいお祭りがたくさんあって、そのお祭りというものを地域活性に生かさないと手はないなと思っていますけれども、それイコール観光ではないなということもずっと思っていて、どうやったらそのお祭りを観光という概念に当てはめられるのかなということは課題であると感じています。

すごい大勢の人が来てくれればありがたいですし、お祭りも盛り上がるとは思いますが、地元の人たちの声を聞くと、やっぱりそういうお祭りじゃなくて、自分たちが、この地域で生きてきて、この大地や自然にいらつと言われる神様とかいろいろなものに感謝しながら、そこの村の人がまた一緒に次の1年を頑張ろうというのが本来のお祭りであるということです。その誇りを持って、地元の人はやっているので、外から来る人にも、理解してもらふ必要があると思います。この地域には町場と比べると不便なところがいっぱいありますけれども、もっと大切なものがあって、そういう地域のお祭りがずっと何百年もこの三遠南信の天竜川水系にいっぱい存在し、それが続いていると思っていますので、そういうものの大切さをきちんとわかってもらって、見に来てもらえるような形ができればいいなと。イベント的にいろいろ祭りを集めて大勢の人に来てもらって、そこで祭りをうまくPRして、地元のお祭りを本当に理解してくれる人や、そういうことに興味がある人が見に来てくれるように、何かコーディネートできないのかなと思っています。

あと一つは、私たちのメンバーの子どもたちとか東栄町の子どもたちが花祭りの会場へ行くとすごく熱い論議をしています。子どもたちは、ふるさとの誇り、自分の誇りだと思っています。そういう子どもたちが、これから外へ出るんですけれども、帰っ

てきて地元で働けるような提案など、こんな町にしたい、町が将来こうなったらいいなというようなことを大人だけじゃなくて、子どもたちとも共有していくと。例えば、将来自分は、調理研究家になって、シカの肉とか、そういうものをうまく生かしたものを自分のふるさとの奥三河でやりたいとか、子どもたちが夢を持てるような種まきをしておかないといけないのかなと思っています。

## コーディネーター

### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

ありがとうございました。Iターン者の生の声をお聞きすることができました。どこも人口減少に苦しんでおります。若者がいなくなる限界集落などをいかに守っていくか、大変な問題だと思います。

そろそろ、第1期から第2期に向けて重点プロジェクト、この塩の道エコミュージアムをどのような形で考えていくかということに入りたいと思います。

皆様からいただいたお話の中で、非常に大事なポイントがありました。大平村長さんからは、祭りや植物のオリジナリティが大事ということで、本来、神様にささげるものを観光にすることの難しさ、現地に育ったものをよそで食べさせることの難しさに関するご指摘がございました。横山町長さんからは、いいお祭りをたくさん集めたところ、パニックになってしまったので、その継続が難しいというお話がございました。湖西市の三上市長さんからは、いろいろあってもいいじゃないかと、どんどんチャレンジすることが大事ではないかという大変元気づけられる発言がございました。

牧野市長さんにお伺いしますが、飯田市の山間地の人口減少に悩む地域には、花祭りと同じようなタイプの国重要文化財の小さなお祭りがあり、一方街にはたくさん人

が集まる大きなお祭りが存在します。それから、世界との交流ということでは、ヨーロッパを中心に交流されております。そういう状況から見て、お祭りのオリジナリティを大事にしつつ、観光に生かしていくことに関する市長さんのお考えをお聞かせ願いたいと思います。

### 飯田市 牧野市長

大脇副理事長さんからお話があったように、お祭りを地域の宝として、誇りとして大事にして、それを継続してやっていくという考え方は非常に私も大事なことだと思いますけれども、一方で先ほど大平天龍村長さんが言ったように、高齢化が進み、後継者不足になってくる中で、そうしたお祭り自体もなかなか維持できなくなっている中山間地域の状況もあるわけです。

遠山郷の霜月祭りも、この数年、だんだんと担い手の皆さん方が高齢化して、そうしたものがなかなかやりにくくなってきているというのは実際あるところなんです。そうした中で、どうやってこれから継続的にやっていくかということ、どうしても外のＩターンの皆さん方のような、そういったお力もお借りすることは、やはり必要になってくると思います。伝統文化芸能としての重要性はもちろんあるわけですが、担い手がいなくなることにより、そうしたものが廃れていってしまうのもやはり大きな問題です。これをどのような形でバランスよく継続した文化として次の世代に継承していくかということは、非常に重要なことだと思います。

私は、そういった地域の文化とか風土というのは、その地域のまさにアイデンティティ、その地域らしさに直接かかわるところだと思っていますから、中山間地域や、あるいは他の街中でもそうですけど、そういったものを継続できなくなるとい

は、その地域らしさが失われていってしまうことに直結すると思っています。やはりそうしたものをどのような形で継続していくかというのは、行政だけではとてもできることではありませんので、まさに多様な主体で、みんなで考えてやっていくことが必要だと思っています。

それと、羽場さんからもお話があったように、世界に向けた発信ですが、そうしたものをどのように情報発信していくかということは、三遠南信地域では、実は余り得意な分野じゃないのではないかという気がしています。みんな奥ゆかしいものですから、自分たちの宝は自分たちで楽しめばという部分を持っていらっしゃると思うんですけど、やはりいいものは情報発信をして、その価値を幅広く知らしめてこそという部分があると思います。そう考えると、もちろんたくさんの人に来てもらって、祭り自体が壊れてしまうようなことがあってはならないですけど、ああ、あの地域はこういうことをやっているんだねということをもみんなに知ってもらえるような、こうした試みというのはやはりやっていく必要があると思っています。

そういうことを通じて、さっき申し上げたような、外からそういったことに関わっていききたいというＩターンの皆さん方も出てくる可能性もあるわけですし、地域の中だけで縮小的な、均衡的な形になるよりは、むしろそうした情報発信を高めることによって、U、Iターンの皆さん方にもこの地域に来ていただいて、できれば定住化につながっていけばと。まさに地域の魅力に引かれて、新しいこの地域の将来を担う人材が、そこに呼び込まれるような仕組みを三遠南信の中につくっていければという思いを持っているところであります。

## コーディネーター

### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

ありがとうございます。

ここから先はオープンにしたいと思えます。今まで、さまざまなポイントが指摘されているかと思えますので、ご意見のある方、お願いいたします。

### 湖西市 三上市長

1つぐらい、これだけは合意しましたというのがあったほうがいいかなと思います。今日は、一番最初に祭りから始まって、最後、東栄町の祭りで終わるといった形になったわけですが、話を聞いていて私もご近所の割には行ったことがないなと感じていましたので、せっかく三遠南信で交流するのなら、まずは祭りを見に行こうと。みんなで見に行こうというのを来年、1回はやりましょう。とにかく祭りを見て、ここに今度集まるときには、自分はあることあるその祭りを見たぞというような会合にしても良いのではというのが私の提案です。みんなでご近所の祭りを見してみようじゃないかといって、最低1年で5カ所以上は見るとか。同じ日にいっぱいやるということはあるんだけど、5カ所ぐらいなら見られるかなと。本当はできれば2桁見たいと思いますけど、少し大変かなと思ながらの提案であります。

### 設楽町 横山町長

今、三上市長さんが言われたように、我々が、地域においていろいろ議論はするのですが、実際に地域のことをみんな知っているかということ、案外知らないものもあるのではないかと思います。やはり自分の地域で悩んでいることは、隣の町でもその隣の村でも同じなのだろうと。

そういう中で、三遠南信でこれだけお祭りがあるということだったら、みんなで外

国の方々にも発信していこうじゃないですか。これは一緒になってやる話だろうと思っておりますので、海外へ向けた発信を行いながら我々自身も確認をしていこうというような提案でありますので、これは同意ができる話であると思えます。

## コーディネーター

### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

事務方で細かいことはもう少し詰めていく必要があるにしても、首長の皆さんとしては、一緒に祭りを見に行こうじゃないかという呼びかけについて、決議しておいたらどうだろうというご意見ですが、いかがでしょうか。

### 松川町 深津町長

大変いいんじゃないかと思えます。やっぱり現場に接するという事は非常に大切なことだと思います。

### 地域づくりサポートネット 山内代表理事

この地域は、伝統芸能、民俗芸能も含めていろいろな祭りが盛んで、こういう文化が、まだ脈々と続いていると思えます。先ほどおっしゃったように、どこのまちや地域でも、その祭りの担い手をどうすべきかそろそろ過渡期になっている部分があります。浜松の山村部の民俗芸能でもそうですし、町なかのお祭りですらそういう部分もあります。浜松の勝坂神楽なんかはよそから担い手を受け入れたりしてやっているのですが、今、私どもで指定管理をやっている市民協働センターで、担い手を募集して、都市と山村の交流をしながら、できれば定住まで結びつけばということで取り組みを始めています。そういった担い手というのにも少し焦点を当てて見に行くということがまちづくりにもつながっていくかなと思えます。

## **NPO法人てほへ 大脇副理事長**

「志多ら」も、大体いつも全国ツアーとか海外に公演に行ったりするのですが、その最後に「花まつり・志多ら舞」という花祭りをモチーフにした演目を必ずやるんですね。それは、この会議室ぐらいのスペースの、真ん中に釜があって、湯がたいてあって、たくさんの人が入って、歌を歌いながら、笛の拍子と太鼓に乗って踊るんですが、和製ディスコじゃないですけど、すごく一体感が生まれます。「志多ら」の公演のときにも、ステージの上にお客さんにも上がってもらって、一緒に祭りの本当の一体感を感じてもらえるような演出をしながらずっとやってきたんですけども、ただお祭りを見るだけじゃなくて、体感してもらおうというのはすごくおもしろいなと思います。海外にツアーに行っても、海外の人も、やっぱり本物を見たい、本物を体験したいという思いがすごくあるので、2年ぐらい前に20名ぐらい、海外から1週間ぐらい「志多ら」のけいこ場に泊まってもらいながら、本物のプロの練習をやってもらいました。本物のお祭りを見たい、苦労してもいいから来たい、大変でもいいから体験したいという、そういう思いの人たちも多いのではないかと思います。実は私も、なかなか都合がつかなくて花祭り以外のお祭りに行ったことがないので、そういう機会をつくってもらえるとうれしいなと思います。

## **コーディネーター**

### **財団法人阿智開発公社 羽場理事長**

この分科会の事務局でもございます飯田市の牧野市長さんに、皆さんのご意見を踏まえまして、これから第2期に向けて塩の道エコミュージアムを形成していくためにどのように考えていくか、それから三上市長さんからの具体的なご提案もございましたので、まとめていただきたいと思います。

## **飯田市 牧野市長**

本当に大変貴重な意見交換の場になったと思います。三上市長さんからもご提案がありましたけど、こうした意見交換をこの場限りで終わらせるのはやはりもったいないと思います。来年に向けて、やはり継続的な取り組みをしていくことが2期の推進事業にもつながっていくのではないかとということで、まずはそれぞれの祭りを見に行こうというお話をいただきました。

特に、実際に祭りの中心でやっていらっしゃる大脇副理事長さんからもお話がありましたけど、得てして自分のところに一生懸命になってしまって、ほかのところがどのようにやっているか、実は、学ぶ機会が少ないというのはよく聞く話で、本当は、そういったところでお互いに学び合って、いいところを取り入れ合って、それぞれの祭りに活かしていくということができたほうが本当はいいのですが、何かのきっかけがないと難しいと思うんですね。三遠南信の中でも、そうしたまさに主体になってやっている皆さん方が、それぞれのやっていることを学び合うような、そういう仕組みをつくっていくことが非常に大事であると思います。

それから、先ほど中野さんのお話の中に出たことで、意見交換の中で余り触れられませんでしたけど、小さな経済をつくっていくというのは、これは非常に大事なことで、祭りにおきましても、私は担い手の話と資金の話と両方あると思っていて、やはりお金がきちんと回るような仕組みも、あわせて考えていく必要があると思っています。昔ですと、いわゆる旦那さんたちがいて、みんながその所望を出してくれて、それでその祭りが成り立っていたということがあったと思うんですけど、その旦那さんたちがもう今ほとんどいなくなっているわけです。商業をやっているらっしゃる深



津町長さんはその辺りは痛感されていると思いますけど、そうすると資金が回らなくなってくるという話が出てくるわけです。この資金をどうやって回すかということもあわせて考えていかななくてはいけない。そういったものを例えば環境産業のおひさまファンドでやっているような形で、市民や地域住民からファンドの形で集めて、そしてこの基金をつかって、そこからこういった風土を守るような事業に展開するようなことも、これから考えていかなければいけないかもしれない。人材と、それから資金、お金の流れ、これが両方うまく回るような仕組みをぜひこの分科会から発信していくことができると、思ったところです。

#### コーディネーター

##### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

ありがとうございました。皆様のおかげで大変活発な議論となりました。

最後に、牧野市長さんのお話を受けて、総括をさせていただきたいと思います。

まず、最初のパートですが、第1期の振り返りということ、4年間やってまいりまして、うまくいったこともあったけれども、難しいこともあったということでした。特に、祭りとかその地域にある食べ物等を外に広げていくことについては、難しさがあるということでした。うまくいくこともうまくいかないこともあったということですが、チャレンジしていくことが大切であるという力強いご指摘もありました。

それから、学びを一つの資源にしていくということが大事なことであるというご指摘もありました。さらには、少子高齢化が課題となっていますが、UターンやIターンで人材が地域に戻ってきてくれる、あるいは来てくださる、それによって地域が活性化するというのも特に中山間地域では大事ですし、あるいは都市そのものがそれ

で成り立っているということですので、そういう方々に来ていただけるような情報発信というのも非常に大事であるということです。

それで、三上市長さんの提言ですが、様々な仕掛けがあるかと思しますので、また事務方の皆さんにぜひ頑張ってくださいと思いますが、例えば、桜の花見に首長さんは首長さん同士で呼んで花見の会を開くとか、あるいは民間の皆さんは民間の皆さんで、アーティストはアーティストの皆さんで交流会を開いて、そのお祭りに席を設けるとか、様々な方法があるかと思いません。ぜひお互いにパーティーを主催していただいて、招待状をしっかりと出させていただくというようなことが今日の決議ということでよろしいでしょうか。反対がなかったので、「決議」としておきたいと思います。

それから、小さな経済をつくるということが指摘されました。特に原発を受けて、私たちの試みは非常に大事なものになるかと思しますので、これも考えていきましょう。それから、いかに人材バンクをつくっていくか、そして、地域ファンド等の方法を使ってお金が動いていくようにすることが提言されました。これらを進める中で、ビジョンに掲げられた塩の道エコミュージアムの確立に向けて着実に進めてまいりましょう。具体的に一つずつやっていきたいと思います。